

風水害に備えよう わが家の防災

風水害は毎年日本中で発生しており、誰もが被災する可能性があります。
そこで今回は、日ごろからの備え、気象情報の見方や防災情報の入手方法などを紹介します。
風水害から身を守るため何ができるのか、家族やご近所と一緒に、考えてみませんか。

でも「いつ」から始めよう

もしものときに備える

いつ起きるか分からない災害の被害を最小限にとどめるために、非常持出品の準備（3ページ下）避難情報の入手方法（4ページ）避難場所（6、7ページ）を確認しておきましょう。また、自宅周辺の備え（3ページ上）も必要です。日ごろから点検し、問題がある場合には改善しておきましょう。

気象情報を常に確認する



気象台では、警報と注意報を市町ごとに発表しています。

また、その前段階として注意を促したり、警報注意報を補完したりするため、気象情報を提供しています。テレビやラジオなどで提供されるこれらの情報を正しく理解し、活用しましょう（下の図）。

注意報 災害が起こる恐れがある予想される場合。

警報 重大な災害が起こる恐れがある予想される場合。

特別警報 警報の発表基準をはるかに超える豪雨や暴風などが予想され、重大な災害の危険性が著しく高まっている場合。

特別警報の発表基準は、大雨特別警報の場合、台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想され、もしくは、数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により大雨になると予想される場合です。特別警報が発表されたら、経験したことのないような異常な現象が起きそうな状況です。ただちに命を守る行動をとってください。また、この数十年災害の経験がない地域でも、災害の可能性が高まっています。油断しないでください。また、土砂災害（4ページ）竜巻（5ページ）に関する情報についても紹介しますので、身を守るために活用してください。

気象台が発表する気象情報（大雨）



気象情報を正しく理解するために

テレビやラジオなどで提供される気象情報を正しく理解し活用するために、風水害に関する気象用語について解説します。

雨の強さと降り方

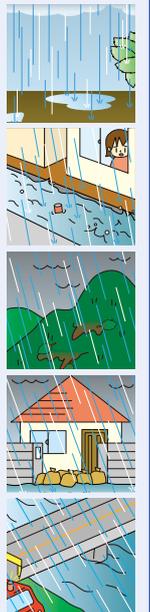
やや強い雨（1時間に10～20ミリメートル）
地面一面に水たまりができ、雨の音で話し声が良く聞き取れなくなります。長雨になりそうなら、注意が必要です。

強い雨（1時間に20～30ミリメートル）「土砂降りの雨」です。傘を差していてもぬれてしまうほどです。側溝や下水、小さな川があふれ、小規模のがけ崩れが始まります。

激しい雨（1時間に30～50ミリメートル）「バケツをひっくり返したような雨」です。寝ている人の半数くらいが雨に気が付き、がけ崩れ、山崩れなどが起きやすくなります。

非常に激しい雨（1時間に50～80ミリメートル）「滝のような雨」です。水しぶきで辺り一面が白っぽくなり、視界が悪くなります。傘が全く役に立たなくなり、浸水など多くの災害が発生する可能性があります。

猛烈な雨（1時間に80ミリメートル～）猛烈な雨により、息苦しくなるような圧迫感があります。雨による大規模な災害の発生する恐れが強く、厳重な警戒が必要です。

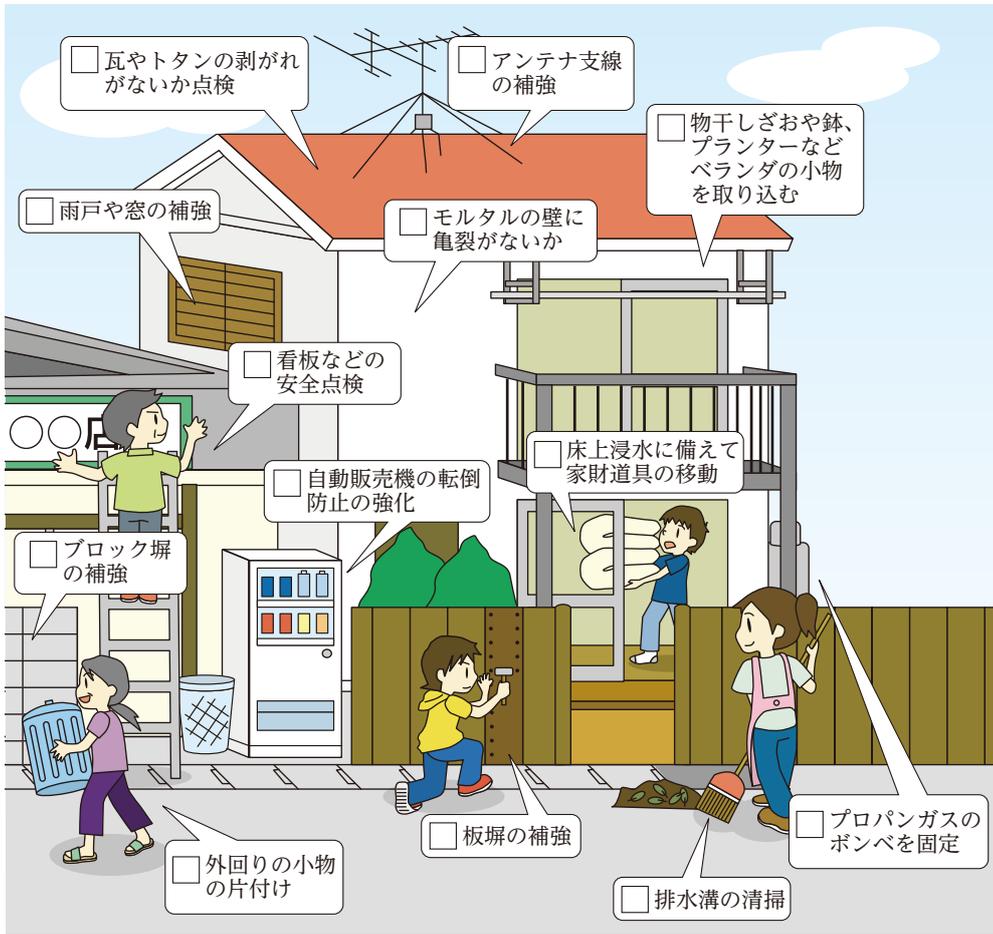




✓ **チェックしましょう**

家の周囲の備え 災害を最小限にするために

皆さんの家庭では、台風や大雨に対する備えは万全でしょうか。家の中や周囲をしっかりと点検し、いざというときに備えましょう。



- 気象情報、防災関係のニュースや広報を聞き逃さない
- 納屋や物置などに置いてある危険物の漏れ出し防止
- 風呂水をためておく
- 停電に備えて電池の予備の補充(ろうそくは使わない)
- 緊急避難に備えて非常持出品の点検

2次持出品 災害後に備えるために

災害復旧までの数日間を自活するためのもの。少なくとも、災害後3日間は自活できるように準備をしておきましょう。

- 水**
飲料水は大人1人当たり、1日3リットルを目安に準備。ペットボトルのほか、ポリ容器に水をためておくと便利。
- 燃料**
卓上こんろや固形燃料、予備のガスボンベなど。
- 食品**
缶詰やレトルト食品、ドライフーズなど、そのまま食べられるものや、簡単な調理で食べられるものを準備。チョコレートやあめ、梅干しなども。
- その他**
毛布、寝袋、洗顔用具、ラップ、食器類、使い捨てカイロ、ロープ、パール スコップなどの工具、マスク、トイレットペーパー、予備の眼鏡、ドライシャンプーなど。

1次持出品 最低限そろえておきたいもの

避難するときに持ち出す最小限の必需品。すぐに取り出せる場所に保管することも大切です。

- 懐中電灯**
できれば1人に1つ用意。予備の電池と電球も忘れずに。
- 携帯ラジオ**
小型で軽く、AMとFMの両方を聞けるものがよい。予備の電池は多めに。
- 貴重品**
現金、預貯金通帳、印鑑、健康保険証など。
- その他**
ヘルメット、マスク、上着、下着、タオル、軍手、紙の食器、ライター、缶切り、ビニール袋、ティッシュ、生理用品、紙おむつ、哺乳瓶、携帯トイレなど。
- 救急医薬品**
傷薬、ばんそうこう、解熱剤、風邪薬、胃腸薬、目薬など。常備薬があれば忘れずに用意。
- 非常食 水**
乾パンや缶詰など、火を通さずに食べられるもの。水はペットボトル入り が便利。乳幼児がいる場合は、粉ミルクも忘れずに。

正しい情報を迅速に入手しよう

防災情報を入手する

災害時に、より多くの市民の皆さんに迅速かつ確実に情報を伝達する手段として、防災情報メールや緊急速報メールがあります。

■市防災情報メール配信

▽内容 気象情報・土砂災害警戒情報などの気象情報や避難準備情報・避難勧告・避難指示などの情報。
▽登録方法 携帯サイトホ



▲QRコード
ホームページ
<http://utsu.nomiyama.wjwp.jp/mobile/>

■緊急速報メール

▽内容 地域の広い範囲を対象とする避難準備情報・避難勧告、弾道ミサイル情報など。
▽その他 市内の携帯電話に対し、一斉配信します。事前登録の必要はありません。

災害時などの公共交通の運行状況の確認

災害時は運行が遅延したり、運休になる場合があります。各社のホームページをご覧になるか、電話でお問い合わせの上、ご利用ください。

■バス

関東自動車 ホームページ<http://www.kantobus.co.jp/>
 ●本社 ☎(634)8133(月～金曜日=午前9時～午後5時40分)、築瀬営業所 ☎(633)3482(午前8時～午後8時)、駒生営業所 ☎(652)4795(午前7時～午後9時)、宇都宮営業所 ☎(647)1181(午前5時～午後9時)
東野交通 ホームページ<http://toya108.jp/>
 ●本社 ☎(662)1080(月～金曜日=午前9時～午後5時20分)、宇都宮営業所 ☎(661)2251(午前6時～午後10時30分)



JRバス関東

●宇都宮支店 ☎(687)0671(午前9時～午後5時30分)

■鉄道

JR東日本 ホームページ<http://www.jreast.co.jp/>
 ●お問い合わせセンター ☎050(2016)1600(午前6時～午前0時)
東武鉄道 ホームページ<http://www.tobu.co.jp/>
 ●お客さまセンター ☎03(5962)0102(年末年始を除く午前8時30分～午後7時)

んが、携帯電話の機種や通信状況、災害の状況などにより、配信されない場合があります。

■その他市からの情報

避難所の開設状況や災害の影響に伴うライフライン情報などを、とちぎテレビ・栃木放送・エフエム栃木などのメディアへ、随時、情報提供します。また、ホームページや携帯サイト、とちぎテレビのデータ放送を活用して、災害情報をお知らせします。

さらに、風水害や土砂災害の危険が迫っている場合、避難に関する情報を状況の深刻度に応じて発令します。発令内容に応じて安全に避難してください（5ページ右上の図）。

1 避難準備情報（要援護者避難）

▽人的被害が発生する危険性が高まった状況。
 ▽避難に時間が掛かる高齢者や障がい者などの要支援者とその支援者は避難を開始してください。
 ▽通常の避難行動ができる人は、非常持出品の用意などの避難準備を開始して

▲土砂災害の危険信号▲



▲平成26年6月に市内で発生した土砂崩れ

土砂災害とは、土砂の移動が原因となる自然災害のことです。集中豪雨などを原因とする土砂災害はもちろん、近年は大規模な地震に伴い土砂災害が発生するケース多く見られます。

■土砂災害の前兆に注意 避難勧告が出なくても、以下のような危険を感じたら、周囲の人に知らせて自主的に避難しましょう。

- ▽雨が降り続けているのに、川や沢の水が減る。
- ▽川の流が濁り、木が流れてくる。
- ▽小石がパラパラ落ちてくる。
- ▽山鳴りがする。
- ▽斜面から水が湧き出ている。
- ▽地面にひび割れができる。

■土砂災害から身を守る 大雨がいちばん強く降ってから1時間以内、または3～4時間後を中心としてかけ

崩れなどの土砂災害が発生しやすくなります。しかし、これは目安であって、この時間を過ぎても土砂災害が発生しないとは言いきれません。状況を把握し、適切な対応や避難を行いましょう。



命を守る最低限の行動



危険な状況の中での避難行動はできるだけ避け、安全確保を第一に考えます。避難所への移動(水平避難)だけでなく、自宅や近くの頑丈な建物の2階以上へ緊急的に一時避難(垂直避難)し、救助を待つことも検討してください。

安全避難のポイント

■安全な服装で、持ち物は最小限に ■車は使わない

ヘルメットで頭を保護。ひもで締められる運動靴を履き、荷物は背負い、両手が使えるようにする。



車は数十センチの浸水でも浮いてしまい危険。他の避難者や緊急車両の妨げにもなるので、徒歩で避難する。



■隣近所で声を掛け合う

避難は2人以上で。隣近所を誘い集団で避難する。高齢者や障がい者などの災害時要援護者に配慮する。



■マンホールや側溝に注意

急激な大雨が下水管に流れ込むとマンホールのふたを開けてしまうことも。マンホールや側溝への転落に十分注意する。



市総合防災訓練

- ▽日時 8月23日(土) 午前9時～正午。
- ▽会場 河内中学校(中岡本町)。
- ▽内容 自主防災会や防災関係機関の参加による救出訓練、炊き出し訓練、避難所訓練や市民の皆さんの参加による地震体験など。
- ▽その他 駐車場は岡本西小学校(中岡本町・午前8時～午後1時)。駐車場の台数に限りがありますので、乗り合いや公共交通機関をご利用ください。

2 避難勧告
 ださい。
 人的被害が発生する危険性が高まった場合。
 対象地域の住民に避難場所への避難を勧め促すものです。
 3 避難指示
 人的被害が発生する危険性が非常に高まった、またはすでに人的被害が発生した状況。
 すでに避難していない住民は、直ちに避難に移るとともに、そのいとまがない場合は、命を守る最低限の行動をしてください(5ページ左上の図)。

最近、日本の各地で被害をもたらしている竜巻

激しい突風をもたらす竜巻などの現象は、発現時間が短く、発現場所も極めて狭い範囲に限られます。しかし、竜巻注意情報は比較的広い範囲(おおむね1つの県)を対象に発表するので、必ずしも竜巻などの突風に遭遇するとは限りません。竜巻注意情報が発表された場合には、次のような周囲の空の状況に注意してください。

- ▽空が急に真っ暗になる。
- ▽大粒の雨や「ひょう」が降り出す。
- ▽雷が発生する。

■屋内にいる場合の対策

- ▽窓ガラスから離れる。
- ▽雨戸、窓、カーテンを閉める。
- ▽窓のない部屋に移動する。
- ▽丈夫な机やテーブルの下に入って身を守る。

■屋外にいる場合の対策

- ▽物置や車庫、プレハブの中は危険。

- ▽電柱や樹木のそばも危険。
- ▽頑丈な建物の物陰などに入り、身を小さくする。
- ▽建物がなければ、うずくまって両腕で頭や首を守る。
- ▽車の中など、金属に覆われた乗り物の内部は比較的安全。

■その他 詳しくは、気象庁ホームページ竜巻情報 <http://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/tatsumaki/> をご覧ください。また、竜巻注意情報の解説と身を守るための行動について記したリーフレット「竜巻から身を守る 竜巻注意情報」がダウンロードできますので、併せてご確認ください。

■竜巻とはこのような現象です



この他、発達した積乱雲はダウンバーストやガストフロントと呼ばれる強風を引き起こすことがあります。